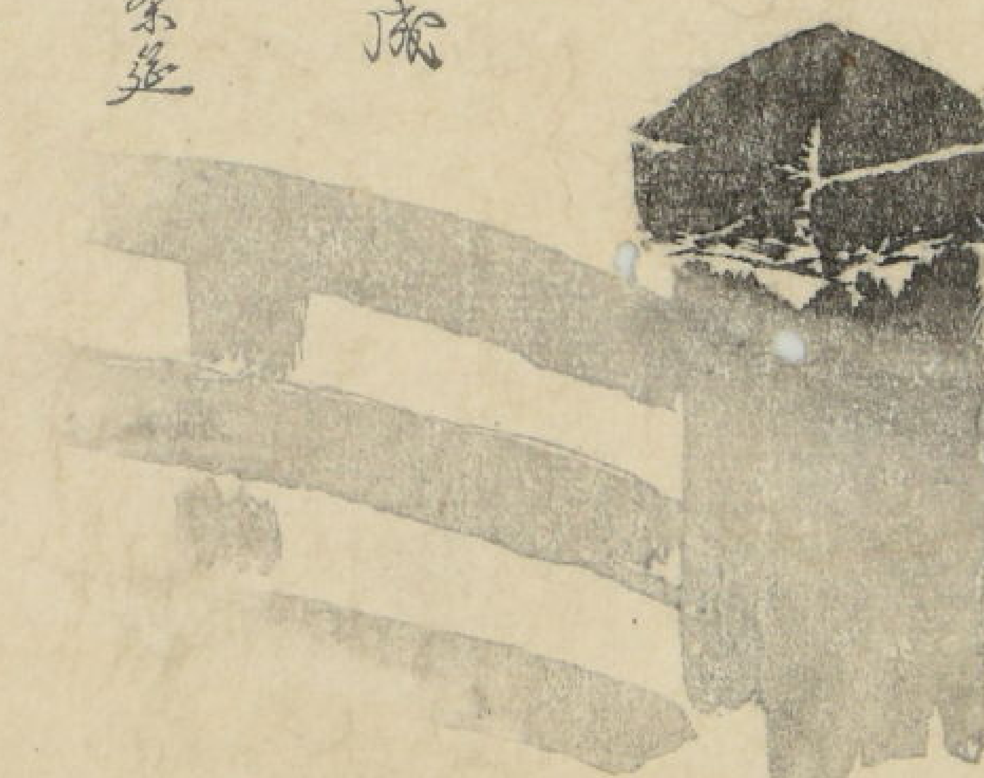

嶌山

三河書画

新橋や城から
　おろす松の影　李徳

橋かけてのちは
　ちかみちや馬の道　采延

道通のをよし
　ましく紀渡り初　魯石

新橋や鶴亀も宜御代の春　相茂

新橋やらんかんまで夕すゞみ　昆亀

秋風の橋柳に乱れかゝりけり　其石

此橋の末は風の更くる女の代

あふむ橋に待合し夜の月　蒿橋

新橋の新らしいさゝか神楽かな　友篠

此橋や幾万人の草鞋　其友

一夕立まへて橋の渡り初　篁文

此わたり橋向ふの秋の乱れ　南路

又わたる人の橋も此世かな　基史

此橋のかきつばた富士道者　山人

城から近川よりも夜の月　采城山

豊橋や家々にちる鏡川　西石斎

橋すゞしあかり蚊川　本丹

柳から乱舞に坂道

昼過や尾月にみて鳥の声　山風

山寺の尾をゆかちかみちの人の声　鶯卿

夕日や橋のかな川　寿湖